

開会 令和5年3月29日
閉会 令和5年3月29日

足利市教育委員会定例会

足利市教育委員会

令和5年第5回足利市教育委員会定例会会議録

足利市教育委員会教育長 須藤 秀幸は、令和5年3月29日、令和5年第5回足利市教育委員会定例会を足利市役所に招集した。

- 1 出席委員は、次のとおりである。(5名)

教育長

| |
|-------|
| 須藤 秀幸 |
|-------|

教育委員

| | |
|-------|-------|
| 笠原 健一 | 木村 知巳 |
| 松村 由紀 | 野口 直美 |

- 1 会議事件の説明に出席したのは、次のとおりである。

| | | | |
|------------|-------|----------|-------|
| 教育次長 | 岡田 和之 | 教育総務課長 | 石井 邦弘 |
| 生涯学習課長 | 齋藤 由美 | 市立図書館長 | 茂木 成一 |
| 学校管理課長 | 倉上 豊治 | 学校給食課長 | 清水 信博 |
| 文化課長 | 松葉 範幸 | 市立美術館長 | 片柳 孝夫 |
| 史跡足利学校事務所長 | 立野 公克 | 市民スポーツ課長 | 八代 浩守 |
| 国体推進課長 | 植木 勲 | 学校教育課長 | 岡部 陽一 |
| 庶務担当総括主幹 | 腰高 浩 | | |

- 1 本委員会の書記は、次のとおりである。

| |
|-------|
| 亀山 泰昭 |
|-------|

- 1 傍聴者 1名

本日の会議日程

日程第1 会議録署名委員の指名について

日程第2 報告事項について
(教育総務課、文化課、学校教育課)

日程第3 議案第9号
足利市教育委員会事務局組織等規則の改正について

日程第4 議案第10号
足利市国体推進課設置規程の廃止について

開 会 午後1時29分

須藤教育長

ただいまから、第5回足利市教育委員会定例会を開会いたします。

日程第1 会議録署名委員の指名について

木村委員 野口委員

以上のとおり、指名することについて異議なく了承される。

日程第2 報告事項について

須藤教育長

日程第2「報告事項について」、これを議題といたします。説明に時間を要するため、資料No.1と資料No.2はそれぞれ事務局の説明の後に質疑を行い、資料No.3, 4, 5については一括して質疑を行うこととしたいがよろしいでしょうか。（「異議なし」との発言あり）それでは、そのように決定します。説明は、簡潔明瞭にお願いいたします。

【令和5年第1回（3月）市議会定例会一般質問及び答弁について 資料No.1】

（腰高庶務担当総括主幹から説明）

須藤教育長

ただいまの報告について、ご質問などがありましたら、お願いいたします。

木村教育委員

資料の17ページのところで、足利市として中高一貫というのは考えていくのか、というのが一点目。もう一つは、20ページのところで、学校給食の無償化について。質疑答弁の内容を見ると財源の確保が非常に難しいということですが、最近弊社の従業員が市内に家を建てました。社長は子育て環境が整っている太田市には住まないのかと言われましたけれども、私は足利市が好きなので、足利に住んでいるというようなことを答えましたが、いろいろな環境下で、おそらく子供を育てる環境というのは非常に重要なのかなと思っておりまして、教育環境ももちろんですが、こうした学校給食費の無償化というのは、例えば5億円以上の効果というのを、もし

かしたら将来的に長い目で見ると大きな、重要な要素になってくるのかなと思いついて、そういった観点から、もう一度、給食費の無償化ということについて考えてほしいと思いました。なんとなく資料にある答弁の文面はネガティブな感じがしたところですが、足利市としては実際のところもう少し踏み込んだ形で検討しているのかどうか伺いたい。

須藤教育長

まず一点目について説明をお願いします。

岡部学校教育課長

小中一貫という点について、小中一貫校というものについては現在のところ考えておりません。ただ、小学校、中学校、そして高校といったつながりの中での連携という形で、足利で学ぶ生徒たちを育てていくということは重要であると考えておりますので、答弁に記載のありましたような連携強化ということで進めていきたいと考えております。

須藤教育長

中高一貫ではないのですか。

岡部学校教育課長

失礼しました。中高一貫というような形では現在のところ考えておりません。

木村教育委員

教育委員会のほうで、いろいろなことを考えておられていて、ただそういったものが市民に伝わるかということ、なかなか我々の不足もあるのではないかと考えています。教育委員会のほうでいろいろなことを考えて、いろいろなことを施策しても、なかなか末端のPTA会員までは届かないのかなという中で、見せ方の一つとして、中高一貫というのは非常によい取組なのかなというふうに思っていて、佐野中学校をみていると競争率もかなり上がって、成績も非常によくなっていると。また、まわりにそうした高校や中学校があると、競争意識や親の教育意識、子供達の教育環境も大きく変わっていくのかと思うため、ぜひそうした観点からも、中高一貫という言葉であったり、中高一貫というところでの市民へのPRもあるかと思うため、ご検討いただきたい。意見です。

岡部学校教育課長

中高一貫の取組については、今ご指摘をいただいたとおり幅広くその実現について周知できるようなこと、PRについて検討してまいりたいと考えております。

須藤教育長

中高となりますと、ご案内のとおり中学校が足利市立、高校が栃木県立となります。佐野中学校は栃木県立となります。設置者の違いが出てまいりますので、今後、県教委と市教委の範疇というところでは、今後の学校の在り方というところと一緒に考えていければと考えているところです。それでは、二点目の学校給食費の無償化についてお願いします。

清水学校給食課長

ただいま、委員からご指摘をいただきました学校給食費の無償化につきましては、答弁要旨にも記載のありますとおり、今後様々な角度から研究していくということで答弁させていただいております。財源の確保という点については、確かに大きな部分であるわけですが、学校給食法に定めがありますので、本市におきましてもそこに則って対応しております。また、学校給食法には食育についても規定がありまして、保護者に対する感謝の心を育むなど教育に関わる部分もあります。子育て支援などの面で無償化の話が進んでいるということは十分承知しておりますが、本市におきましても高校生までの医療費無償化などに取り組んでおりますので、今後、様々な角度から研究してまいりたいと考えております。

野口教育委員

18ページの鳥井議員のところ、新型コロナウイルス対策のために、HEPAフィルター付空気清浄機が小学校で71台、中学校で28台配備され、CO₂センサーは小学校で64台、中学校で13台配備されていると記載されていて、想像以上に整備されている印象を受けました。再質問の答弁の中で、402学級とあります。この数が、私の中でよくわからないのですけれども、設置率が空気清浄機では24.6%、CO₂センサーでは19.2%ということは、要するに空気清浄機の設置率が学級全体では4クラスに約1台。CO₂センサーでは5クラスに約1つということをお答えされておりますが、結局高額であるため、全校に配備される予定はないのだろうと思うのですが、今後の方向性として、新たに設置率を増やしていくのか、それとも今後は別の方向で、というのか。考えをある程度検討されているのかどうかお聞きしたい。

倉上学校管理課長

答弁書にもありますとおり、基本的には窓を開けることによる換気が基本となっております。空気清浄機やCO₂センサーにつきましては、換気の補完的な役割というスタンスであります。実際に空気清浄機が設置されているのも保健室などと聞いておまして、教室への設置はないという状況です。今後も換気を基本として、空気清浄機やCO₂センサーについては補完的な役割ということで進めてまいりたい。

野口教育委員

私もそのほうがよいと思います。予算を無償化のほうに組み入れたほうがいいかなと思います。

松村教育委員

16ページの杉田議員の質問の新足利高校との連携ということですが、答弁の中にありますように、足利高校への進学や、足利高校が新たに設置されたということで、子供たちにとって目標になったり、前向きな意欲につながっているということは、とてもうれしいことだと思っております。答弁の最後のところで、来年度新たに、各中学校、及び高等学校の校長、学習指導主任がそれぞれの立場で中高の接続の在り方を話し合う場を設けたりしていくとありますが、先ほどのお話にもありましたが、県立と市立の管轄の違いがありますし、あとは幼稚園や保育所との連携なども大変必要ではないかと思っております。そういった連携は大事だと思っておりますが、ぜひ私立とも強い連携をしていく方向でお願いをしたいと思っております。この答弁の中の、各中学校及び高等学校の校長、学習指導主任が、というところで、高等学校というのはどのような学校を指しているのか、その点について質問をさせていただきたい。その他の部分はお願いとしてお聞きさせていただきたい。

岡部学校教育課長

この答弁における高等学校は、県立高校4校、及び市内にある私立高校すべてを指しております。その集まりの中で、私立、県立を含めた高校の校長先生方、または中学校の校長先生方の話し合いの場を持ったり、教員についても私立、県立の教員の交流を持ったりすることで幅広く考えております。

松村教育委員

県立特別支援学校の高等部についても考えていただいているのでしょうか。

岡部学校教育課長

現在のところ、県立高校の中に、特別支援学校までは考えておりません。まず、方向性ということで、話し合いの場を持っていくということですので、特別支援学校については今後の課題と考えております。

松村教育委員

現実的なところ、足利中央特別支援学校の高等部の子供達の半数くらいだと思いますが、通常の中学校のほうから進学していると思いますので、ぜひ強い連携をしていただければと思います。よろしくお願ひいたします。

笠原教育委員

25ページです。柳議員の再質問の中で文化振興条例の制定について答弁があります。その必要性について検討を進めてきていて、令和5年度から具現化に向けて取り組む予定であると。なおかつ、文化振興条例の制定を進めていくことで、新しい市民会館の更新計画に対する市民意識なども、より明確にできてくるという話があるわけです。足利市は、歴史と文化と教育、織物のまちということで進めていっていただきたいと思っておりますし、必要であると思っております。まず、文化振興条例について簡単に概要をお教えいただきたいのと、条例ともなるいろいろな手続きなどがあるのかと思っておりますので、終着をいつ頃と想定しているのかわかりましたらお願いしたい。

松葉文化課長

文化振興条例の概要ですが、国が平成13年に文化芸術振興基本法というものを作りました。平成29年に改正しまして、中身としては文化芸術の振興だけにとどまらないということ、例えば観光やまちづくり、福祉、教育、産業、そういった幅広い分野と連携して、総合的な文化政策を推進するというので、先ほどの文化芸術振興基本法を改正しまして、文化芸術基本法といったものにしました。特に、この制定はマストではないのですが、この基本法の改正を機に、文化振興条例といったものを制定する自治体が増えまして、令和4年秋ごろでは、36都道府県、136市町村が設置している状況であります。二点目ですが、スケジュール感については令和5年度中に策定委員会と市民の意見を聴きながら、市の総合計画の中でも早めにとり行うことになっておりますので、できればその進行の中で策定できればと考えております。

【令和5年度対象「教育に関する事務の点検・評価」について 資料No.2】

(関係課長から説明)

須藤教育長

ただいまの報告について、ご質問などがありましたら、お願いしたいと思います。節ごとにご意見をいただきます。はじめに、第一節についていかがでしょうか。

木村教育委員

4ページの推進指標の数値によると、いじめは増えているという認識なのでしょうか。

岡部学校教育課長

いじめにつきましては、基準値との比較をしたときに、現在のところ7月の解消率という形で、実際には2月に出るわけですが、7月に市独自の調査による解消率

は65.6%というふうになっております。令和4年度におきまして、生徒たちがいろいろなものを取られたとか、そういうこともいじめだと感じた場合にはそれも大事な数としてカウントしておりますので、いろいろな数の条件はありますが、現在のところいじめの解消率ということで、全体としては低下していると捉えております。

木村教育委員

令和2年度の基準値が68.2%、令和3年度が61.7%ということで、これはゼロに近づくほうがよいということなのではないでしょうか、それとも100になればよいのでしょうか。

岡部学校教育課長

達成率ですので、率が上がるほどよいものになります。

木村教育委員

ということは、いじめが増えているという認識でいいのでしょうか。

岡部学校教育課長

令和2年から3年については、子供達を感じるものの数については増えているということです。

木村教育委員

なかなか親御さんであったりとか、学校の環境の中で、先生がいじめに気付くというのは本当に難しいのかなと認識しています。ただ、先生のいないところでのいじめは、子供のほうは把握しているのかと思っています。何か、タブレットを通じてであるとか、何らかの方法で子供が先生に直接アポイントできるとか、そういったシグナルを拾えるような、それがいじめの対象者ではなく、それを見ている子供達であってもそういった指摘ができるような仕組みがあったらいいなと思ったので、せっかくタブレットを子供達は持っていますので、そういったところで、目安箱ではありませんが、誰が投稿したかわからないような形で先生に声が届いたらいいのかと、それとも校長先生に届いたらいいのかなと思いましたので、そうしたところで、未然防止と適切な支援といったところにもタブレットを使っていればいいなと思いますので、意見としてお聞きください。

岡部学校教育課長

現在、いじめを含む各種調査について、タブレット端末を通して集計を進めているものもあります。タブレット端末というのはもちろんありますが、日ごろから先生方に直接言えるような、また教師の側から声をかけてあげられるような、毎日の関わりが大変重要だと考えております。現在、それに関しても先生方と研修会な

どもしておりますので、やはり、日々先生方が生徒一人一人の表情を看取っていくというように、ところどころも大事にしていきたいと考えております。

木村教育委員

それは十分理解しているのですけれども、その中から、見つけられない部分もあるのかなと思えますので、ぜひ、子供達全員が先生に対して何か情報を入れられるような、一人で悩んでいるような子供達もいると思うのです。それをサポートしたいけれども声に出す勇気がないとか、それが別の形で自分がいじめの対象になってしまうのではないかと心配することもあるかと思うのです。そうしたところで、何か子供達が、先生に信号を発信しやすい、誰もが言えるような環境がタブレット上にあるといいなと思えますので、そうしたことを一つご検討いただけるといいと思います。

松村教育委員

木村教育委員が言われたような、未然防止はとても大事だと思います。いじめというのはなくなる、あるはずだ、というところから始まっていると思いますので、ゼロにすることはできないですが、また、多いほうがいいとは言いませんが、なるべくたくさん発見して、解消していくということが学校の中ではとても大事で、そこに精力を注ぎ込むと思います。解消率のところを向けて、そこに数字を出していることはとても大変なことだと思いますし、これを100%解消したいという思いはすごく感じましたので、この指標は本当に貴重な資料であると思います。発見してしまったものを、一生懸命本当に解消できたのかどうか、最後まで看取ると頑張っておられるところかと思えますので、そんなふうに捉えております。

木村教育委員

卒業式で富田中学校に行ってみりました。41名の卒業生の中で4名が欠席されていて、どうして欠席なのかなと思ったところです。一割くらいの生徒が欠席というのは富田中学校だけなのか、他の中学校でもあることなのか気になるところだと思ったのと、それがもしかしたら、いじめと因果関係があるのであれば、私たちの世代の頃に中学校の卒業式を休むというのはほとんどいなかったと思いますので、今現在の子供達の環境では当たり前なのかどうか、その辺に違和感を感じたものですから、子供達が義務教育が終わるときに、卒業式は全員が参加して、楽しんでお別れができるような環境をつくるというのは非常に重要なことだと思いますので、ぜひ、このいじめ対策については、教育のこともそうなんですが、環境をより整えるためには非常に重要なことであると思いますのでよろしくお願いいたします。

須藤教育長

それでは、第二節についてはいかがでしょうか。

笠原教育委員

先週ビブリオバトルを見に行ってきましたが、本当に素晴らしい取組でした。本を読むということは、改めて子供達の健全な育成にどれほど役に立つのかということ、身をもって知ったという感じがしました。そういう意味では、生涯にわたる学びの機会の充実に、読書活動の推進とありますが、その目標達成のために、より具体的に、より広く、より色んな子供達がそれに感化されるように、改めてお願いしたいと思いました。

松村教育委員

資料の8ページに、子どもの学び応援隊の登録者数とありますが、すでに令和3年度の時点で目標値を達成しているという状況で、大変素晴らしいと思います。229人の方々は、すべての方が動いてくださっているのか、また、目標値を達成してしまったので今後どのように進めていくのかお聞きしたい。

斎藤生涯学習課長

地域の皆様に大変なご理解をいただき、ご協力いただける方も増えておりまして、来年度も更に3校増やす予定でおりますので、人数もそれに伴って増やしてまいりたいと考えております。指標のほうも、すでに目標値を達成しておりますので、もし可能であれば、もう少し増やす形で修正ができればと考えております。

須藤教育長

それでは第三節はいかがでしょうか。ないようですので、第四節はいかがでしょうか。

笠原教育委員

13ページの一般スポーツ教室修了率の令和7年度目標値として90%とあります。目標値自体は変わらないものとしてやっていくのかと思いますが、Eスポーツなんというの也有ります。そうすると、これは対象外になっているのかと思いますが、そういう意味で、目標というか、そもそも現状が変わってきているものがここに限らずあると思います。そういうときに、それをどうやって軌道修正するのか、そういうときに、推進目標の最終目標値が終わってから課題を変更するのか、それとも、折をみて、またこの辺を織り込んでいくのかというのが一点。もう一点は、国体のビーチバレーボール会場について、今後も残すような話を聞きましたが、これを残してどうするのかという部分についてお聞きしたい。

八代市民スポーツ課長

推進指標については、現在足利市みどり文化・スポーツ財団が主に行っておりましてスポーツ教室の修了率を指標とさせていただきます。ご指摘のEスポーツに

については、財団の事業の中に組み入れていないものですから、時代の流れの中で、必要に応じて対応していく必要もあるかと思いますが、現時点ではEスポーツについては指標の中には入れておりません。もう一点のビーチバレーボールコートの存続については、現段階の考え方は令和5年度の需要を踏まえて今後を考えていきたいと思っております。貸し出しについての要綱等を整えて、実際にどれだけ使用があるのか一年かけて確認して、令和6年度以降どのようにしていくのかを決めていきたいと考えております。

岡田教育次長

ビーチバレーボールコートにつきましては、はじめに2面、その後2面と、合わせて4面造りまして、追加して造った2面については県の負担で造ったものですから、これについてはすぐに取り壊し撤去となっております。残る2面については、県から砂をもらって、足利市のお金を使って整備したもので、事前の練習試合などで使ってまいりました。この2面については、足利市バレーボール協会のほうからぜひ残してほしいとお話しがありました。ただ、砂地になっておりますので、ビーチバレーボールだけでなく、ビーチテニスやビーチサッカー、トレーニングなどでも需要が見込まれることから、そうした利用をしたいとお話をいただいております。そうしたこともありまして、一年間暫定的に利用状況を把握して、今後の検討に活用してまいりたいと考えております。ただ、芝生広場自体があくまで暫定利用ですので、例えば新市民会館など、市が利用するということになりましたら、速やかに撤去するような形で確約はとれております。

野口教育委員

市のホームページにはレンタサイクルの紹介がありますが、まだその拠点が少ないということも聞いていましたので、観光の人が使うのもいいかもしれませんが、例えば、今後樺崎寺などに家族で行けるような、市民がレンタサイクルを気軽に使えるように充実させるという意味で、もう少し力を入れてはどうかと思っています。

松葉文化課長

レンタサイクルにつきましては、拠点が駅前でありまして、電動自転車を整備しております。電動であるがゆえに、より遠くまで足を延ばすことができますので、樺崎のほうまで利用される方もいると聞いております。サイクルツーリズムということで、足利市も樺崎のみならず山間地区やまちなかを回遊してもらえるような取組をしておりますので、文化課としては市内にある文化財と絡めてご利用いただけるように努めているところです。

岡田教育次長

足利市では、主に観光客用の貸出自転車として、東武足利市駅前と太平記館に普

通の自転車と電動自転車を置いて、利用のほうも随分増えていると聞いております。今後も観光客の受け入れという視点と、市民の健康づくりという視点の二つの視点から、サイクルツーリズムにつなげていきたいと考えております。

須藤教育長

第五節についてはいかがでしょうか。

木村教育委員

15ページですが、歴史と文化のまちということで、もし可能であれば、義務教育の子供達は市立美術館の参観料を常時無償化することはできるのでしょうか。もし可能であれば、小さいうちから歴史や文化、美術に触れるという、子供達にとっていい教育になるのではないかと思います。いかがでしょうか。

片柳市立美術館長

現在でも、小中学生は無料となっております。ただ、高校生からは料金をいただいておりますが、割引料金とさせていただきます。

松村教育委員

子供達が来館するときに、子供向けの学芸員さんが対応してくれると子供達の学びにとって、とても素晴らしいことだと思います。学校で行った際に、担当の教員だけではどうしても説明が足りないところがあると思いますので、例えば、この時間であれば子供向けの学芸員がいるといった情報があると、よりよいと思います。

須藤教育長

今回の学校教育プログラムでも、対話型の事業であることが学校から大変好評だったと聞いています。そうしたところも今後工夫して取り組んでいただきたい。次に、第六節についてはいかがでしょうか。ないようであれば、第七節から第九節についてはいかがでしょうか。（「なし」との発言あり）それでは以上で終わりにしたいと思います。

【令和5（2023）年度公益財団法人足利市みどりと文化・スポーツ財団事業計画書及び収支予算書について 資料No.3】

【令和5（2023）年度公益財団法人足利市民文化財団事業計画書及び収支予算書について 資料No.4】

【令和5年度足利市青少年国際交流事業の実施中止について 資料No.5】

(関係課長から説明)

須藤教育長

資料No.3についていかがでしょうか。

野口教育委員

15ページの数値目標について、管理事業の稼働率が49.3%というのはコロナの影響ととらえてよろしいのでしょうか。

石井教育総務課長

そのとおりであります。

笠原教育委員

これは内容のことではなくて、教育委員の皆さんに私のほうからお願いしたいのですが、先日、足利市みどり文化・スポーツ財団の評議員会に出席してまいりました。坂上理事長から、財団としても一日も早い市民会館の建設を望みたい。現行、あしかがフラワーパークプラザ1カ所しかないため、スケジュールを含め、いろいろなことが密集しており、いろいろな心配事がある。やはり、受け皿となる市民会館が早くできてほしいと言っていました。私もまったくそのとおりと思います。ぜひ、それぞれの委員さんが、それぞれにご縁のある人や団体と一緒に機運を盛り上げていただきたいと思います。

須藤教育長

続きまして、資料No.4についていかがでしょうか。ないようですので、次に資料No.5についてはいかがでしょうか。

笠原教育委員

前提として、資料の4その他(3)事業費について、これは何年度の交付金のことですか。

岡部学校教育課長

令和5年度の予算になります。

笠原教育委員

これは市議会に上程していなかったということですか。

岡田教育次長

予算編成につきましては、10月から11月にスタートしておりまして、その時点で

は実施する方向で進めてまいりました。その後、先方から中止の申し出がありまして、通常ならば予算凍結という形で基金を取り崩さずに歳入も歳出もなしという形で、そのまま残すという形が一般的かと考えております。

笠原教育委員

実は私は今、教育委員としての立場とともに、足利市国際交流協会の立場もあるので、併せて失礼するのですが、その前の3理由のところ、交流の意義や目的を再確認する必要があるなどの現状をスプリングフィールド市の姉妹都市協会と実施に向けた協議をしている中で、先方から2023年度の派遣交流を延期する旨連絡があったと。当然、交換事業ですから、片方だけということは現実に難しいと思うのですが、まして、どの時点でスプリングフィールドからそのような申し出があったのかわかりませんから、その時の状況ということによっては全然違うと思うのですが、今私が国際交流協会の立場で申し上げると、やはり中学生には行ってもらいたい。中学生には来てもらいたい。今までもそうですが、派遣された中学生は本当にいい勉強ができた、いい経験をさせていただいたと。大体そのように言っているわけですし、もちろん足利市のすべての中学生にやれることではないので、一部の中学生になってしまいますが、でもそのプロセスとしてスピーチコンテストや選考があったりして、選ばれた中学生がいい経験を積んでくれたと、そういう意味では、できることなら私はやらせてあげたい。そしてできることなら、受け入れたいという気持ちがあるのですが、なおかつコロナのこともわかりませんから断念するということも分からなくはないのですが、経済的なことは別にさせていただいて、やるかやらないかというところでは、やったほうがいいと。というのが前提であるならば、スプリングフィールド市と足利市でキャッチボールはあったのだと思います。それが、一方的にスプリングフィールド市がやらないと言ってきたのか、それとも、足利市は足利市でやらないという判断をしたのか、お互い合意したのかと思いますが、ぜひとも、今後はやることを前提に考えていただきたいと思います。もっと言うならば、足利市国際交流協会のほうが受託するわけでしょうから、そこにやってほしいということはなかなか伝えられないかと思いますが、受け皿となっているとすれば、国際交流協会もその中で、やるやらないの話はあっていいのかと思います。もちろん事務局と足利市の中ではあったのかもしれませんが、ちょっと私は、やらないということをいきなり聞いたところであるため、これはプロセスが違うのではないかなど。やれるように考えるというふうにはなっておりますが、先のことでもありますので、できる限りやれることはやるということも考えながら進めていただきたいというところでもあります。事務局から報告をいただいているので、不確かなこととお話ししている部分もあるのですが、令和6年度の再開に向けてというところに大いに期待しながら、今後のスプリングフィールド市との話し合いを進めていただければと思います。

岡部学校教育課長

再開に向けた議論をスプリングフィールド市と進めていたと聞いています。最終的に1月末から2月上旬にかけて、人員の確保、または受入れ家庭の環境のリスクを考えたときに非常に難しいので延期したいとの申し出があったと聞いています。それを受けて、事業の実施中止となったわけであります。

岡田教育次長

スプリングフィールド市との事業については、大きく分けて二つあると思います。一つは、足利市国際交流協会に委託している英語スピーチコンテストの優秀者、高校生や社会人も含めて若い人たちを派遣するという事業。あとは、この540万円とは別枠で各中学校から代表として参加する二本立てでやっております。先程、笠原教育委員からありましたのは、英語スピーチコンテストの優秀者の派遣交流のことかと思えます。教育委員会としましては、中学生の派遣交流ですから、先方の中学生の受け入れもあります。スプリングフィールド市は、あくまで民間の国際交流協会ということで民間団体が事務局をやっております。足利市は、市役所が公費で職員としてやっています。この差がかなりありまして、民間ボランティアの団体と、仕事としてやっている足利市と、こちらは多くの人数を派遣して、先方はその受け入れに大変苦慮しているという状況があるようです。先方のホームステイ先を確保することが、協会としてなかなか難しいということで、中学生の派遣交流については遠慮したいと。国際交流協会の派遣については、所管が生活環境部となりますので、詳しいことがお話しできないのですが、いずれにいたしましても再開に向けて進めてまいりたいと考えております。

須藤教育長

以上のことについては報告として承りたいと思います。

日程第3 議案第9号
足利市教育委員会事務局組織等規則の改正について

(質疑なし)

須藤教育長

議案第9号については、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(「異議なし」との発言あり)

ご異議ないものと認め、原案のとおり決定いたします。

日程第4 議案第10号
足利市国体推進課設置規程の廃止について

(質疑なし)

須藤教育長

議案第10号については、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(「異議なし」との発言あり)

ご異議ないものと認め、原案のとおり決定いたします。

須藤教育長

それでは、これを持ちまして、第5回教育委員会定例会を閉会いたします。

閉会 午後3時10分